

(提案1)

【機能別委員会】

○委員の決定（追加1件）

(科学と社会委員会 Gender Summit 10 分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
三成 美保	奈良女子大学副学長・教授（研究院生活環境科学系）	第一部会員

国際委員会運営要綱(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

改 正 後				改 正 前			
別表 1				別表 1			
分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考	分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
日本・カナダ女性研究者交流分科会	(略)	(略)	(略)	日本・カナダ女性研究者交流分科会	(略)	(略)	(略)
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2016分科会	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2016を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること	委員会の委員3名以内及び会員又は連携会員25名以内	設置期間：平成28年7月29日～平成29年3月31日	(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
別表 2				別表 2			
小 分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考	小 分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
Gサイエンス学術会議(2016)「科学者育成」執筆対応小分科会	(略)	(略)	(略)	Gサイエンス学術会議(2016)「科学者育成」執筆対応小分科会	(略)	(略)	(略)
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2016持続可能な開発目標会議準備小分科会	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議(2016)の持続可能な開発目標会議の準備に関すること	会員又は連携会員若干名	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2016分科会に置く。 設置期間：平成28年7月29日～平成29年3月31日	(新規設置)			
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2016 AASSA(アジア科学アカデミー・科学協会連合)地域ワークショップ準備小分科会	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議(2016)の AASSA(アジア科学アカデミー・科学協会連合)地域ワークショップの準備に関すること	会員又は連携会員若干名	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2016分科会に置く。 設置期間：平成28年7月29日～平成29年3月31日	(新規設置)			

附則

この決定は、決定の日から施行する。

国際委員会分科会の設置について

分科会等名：持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2016 分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	国際委員会
2	委員の構成	委員会の委員3名以内及び会員又は連携会員25名以内
3	設置目的	本分科会は、持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題に対し様々な側面から議論を行い、その解決策を探るため、日本学術会議が例年開催している国際会議の企画及び実施を目的とし設置する。
4	審議事項	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2016 を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること
5	設置期間	時限設置 平成 28 年 7 月 29 日～平成 29 年 3 月 31 日
6	備考	※新規設置

国際委員会 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2016 分科会
小分科会の設置について

分科会等名：持続可能な開発目標会議準備小分科会

1	所属委員会 名（複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。）	国際委員会
2	委員の構成	会員又は連携会員若干名
3	設置目的	本小分科会は、持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題に対し様々な側面から議論を行い、その解決策を探るため、日本学術会議が年例年開催している国際会議の企画及び実施を目的とし設置する。
4	審議事項	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議（2016）の持続可能な開発目標会議の準備に関すること
5	設置期間	時限設置 平成 28 年 7 月 29 日～平成 29 年 3 月 31 日
6	備考	※新規設置

国際委員会・持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2016 分科会
小分科会の設置について

分科会等名：AASSA 地域ワークショップ準備小分科会

1	所属委員会 名（複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。）	国際委員会
2	委員の構成	会員又は連携会員若干名
3	設置目的	本小分科会は、持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題の解決策を探るため、日本学術会議の加盟するアジア地域の国際学術団体 AASSA（アジア科学アカデミー・科学協会連合）の地域ワークショップを 2017 年に日本で開催し、その企画及び実施を目的として設置する。
4	審議事項	AASSA（アジア科学アカデミー・科学協会連合） 地域ワークショップを開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること
5	設置期間	時限設置 平成 28 年 7 月 29 日～平成 29 年 3 月 31 日
6	備 考	※新規設置

○委員の決定（追加１件）

（国際委員会 アジア学術会議等分科会）

氏 名	所属・職名	備 考
永瀬 伸子	お茶の水女子大学大学院人間文化創生科学研究 科教授	第一部会員
澁澤 栄	東京農工大学大学院農学研究院教授	第二部会員
荒川 薫	明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス 学科教授	第三部会員

(提案3)

分野別委員会運営要綱(平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

改 正 後					改 正 前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
地域研究委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	地域研究委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会	(略)	(略)	(略)		地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会	(略)	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会 KLASICA小委員会	1. KLASICA(知識・学習・社会変革アライアンス)研究の推進と広報 2. KLASICAの国際的連繋(Future Earthとの連繋を含む) 3. KLASICA国際事務局等(IIAS・ドイツ)との連繋 4. その他KLASICAの活動への協力、支援、助言、わが国からの参加の促進に係る審議に関すること	15名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者			地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会 KLSC小委員会	1. KLSC(知識・学習・社会変革アライアンス)研究の推進と広報 2. KLSCの国際的連繋(Future Earthとの連繋を含む) 3. KLSC国際事務局等(IIAS・ドイツ)との連繋 4. その他KLSCの活動への協力、支援、助言、わが国からの参加の促進に係る審議に関すること	15名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
環境学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	環境学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会	(略)	(略)	(略)		地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会	(略)	(略)	(略)

	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会 KLASICA小委員会	地域研究委員会に記載	地域研究委員会に記載	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
地球惑星科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会	(略)	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会 KLASICA小委員会	地域研究委員会に記載	地域研究委員会に記載	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会 KLSC小委員会	地域研究委員会に記載	地域研究委員会に記載	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
地球惑星科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会	(略)	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会 KLSC小委員会	地域研究委員会に記載	地域研究委員会に記載	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附則

この決定は、決定の日から施行する。

地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同
地球環境変化の人的側面(HD)分科会小委員会の設置について

分科会等名：地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 地球環境変化の人的側面(HD)

分科会 KLASICA 小委員会

1	所属委員会名（複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。）	○地域研究委員会 環境学委員会 地球惑星科学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員，連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	知識・学習・社会変革アライアンス Knowledge, Learning and Societal Change <u>Alliance</u> (KLASICA)は、国際科学会議（ICSU）の「地球環境変化の人間社会的側面国際研究計画」（International Human Dimensions Programme on Global Environmental Change）において2011年10月から開始された10年間の国際共同研究であり、旧 IHDP のアライアンスでもある。知識・学習と個人の行動変化を通じた社会変革との相互関係について深く理解することが、持続可能な社会構築のために不可欠であるという認識に立ち、さまざまな国際共同研究の可能性を探って行く。本小委員会は、国際的および国内的に <u>KLASICA</u> 研究を推進振興し、人類社会に貢献することを目的とする。
4	審議事項	1. <u>KLASICA</u> 研究の推進と広報についての審議に関すること。 2. <u>KLASICA</u> の国際的連繋(含 Future Earth との連携)に係わる審議に関すること。 3. <u>KLASICA</u> 国際事務局等（IIAS・ドイツ）との連繋に係わる審議に関すること。 4. その他 <u>KLASICA</u> の活動への協力、支援、助言、わが国からの参加の促進に関する事項。
5	設置期間	時限設置 常設
6	備考	※小委員会名及び調査審議事項の変更 (変更理由：KLSC が KLASICA に略称を変更したことを受け、名称を変更する。)

【委員会及び分科会】

○委員の決定（追加1件）

（総合工学委員会 原子力事故対応分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
大倉 典子	芝浦工業大学工学部教授・学長補佐	第三部会員
森口 祐一	東京大学大学院工学系研究科教授	連携会員

【小委員会】

○委員の決定（新規1件）

（総合工学委員会 原子力事故対応分科会 原子力連絡小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
大倉 典子	芝浦工業大学学長補佐・工学部教授	第三部会員
岩田 修一	事業構想大学院大学教授	連携会員
柴田 徳思	東京大学名誉教授、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授	連携会員
関村 直人	東京大学大学院工学系研究科教授	連携会員
竹田 敏一	福井大学附属国際原子力工学研究所特任教授	連携会員
柘植 綾夫	社団法人科学技術国際交流センター会長	連携会員
二ノ方 壽	東京工業大学名誉教授	連携会員
松岡 猛	宇都宮大学基盤教育センター非常勤講師	連携会員
森口 祐一	東京大学大学院工学系研究科教授	連携会員
矢川 元基	公益財団法人原子力安全研究協会会長、東京大学名誉教授	連携会員
山地 憲治	公益財団法人地球環境産業技術研究機構(RITE)理事・研究所長	連携会員
山本 一良	名古屋学芸大学ヒューマンケア学部教授	連携会員

○委員の決定（追加1件）

（総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
安全目標の検討小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
浅間 一	東京大学大学院工学系研究科精密工学専攻教授	連携会員

提案4～5は提言のため、別添2参照。

日本学術会議加入国際学術団体一覧

(加盟順、45 団体)

No.	国際学術団体名称		加盟年	
	日本語名	欧文名	元号	西暦
1	国際科学会議(ICSU)	The International Council for Science	昭和 24	1949
2	国際天文学連合(IAU)	International Astronomical Union	昭和 24	1949
3	国際測地学及び地球物理学連合(IUGG)	International Union of Geodesy and Geophysics	昭和 24	1949
4	国際純正・応用化学連合(IUPAC)	International Union of Pure and Applied Chemistry	昭和 24	1949
5	国際純粋・応用物理学連合(IUPAP)	International Union of Pure and Applied Physics	昭和 24	1949
6	国際電波科学連合(URSI)	Union Radio-Scientifique Internationale	昭和 24	1949
7	国際生物科学連合(IUBS)	International Union of Biological Sciences	昭和 24	1949
8	国際地理学連合(IGU)	International Geographical Union	昭和 24	1949
9	国際数学連合(IMU)	International Mathematical Union	昭和 24	1949
10	太平洋学術協会(PSA)	Pacific Science Association	昭和 24	1949
11	国際結晶学連合(IUCr)	International Union of Crystallography	昭和 25	1950
12-1	国際科学史・科学基礎論連合[科学基礎論部会](IUHPST-DLMPST)	International Union of the History and Philosophy of Science and Technology/ Division of Logic, Methodology and Philosophy of Science and Technology	昭和 25	1950
12-2	国際科学史・科学基礎論連合[科学史部会](IUHPST-DHST)	International Union of the History and Philosophy of Science and Technology/Division of History of Science and Technology	昭和 25	1950
13	国際理論・応用力学連合(IUTAM)	International Union of Theoretical and Applied Mechanics	昭和 25	1950
14	国際生理科学連合(IUPS)	International Union of Physiological Sciences	昭和 27	1952
15	国際光学委員会(ICO)	International Commission for Optics	昭和 29	1954
16	国際生化学・分子生物学連合(IUBMB)	International Union of Biochemistry and Molecular Biology	昭和 31	1956
17	南極研究科学委員会(SCAR)	Scientific Committee on Antarctic Research	昭和 34	1959
18	宇宙空間研究委員会(COSPAR)	Committee on Space Research	昭和 34	1959
19	海洋研究科学委員会(SCOR)	Scientific Committee on Oceanic Research	昭和 36	1961
20	国際地質科学連合(IUGS)	International Union of Geological Sciences	昭和 37	1962
21	国際純粋・応用生物物理学連合(IUPAB)	International Union for Pure and Applied Biophysics	昭和 38	1963
22	科学技術データ委員会(CODATA)	Committee on Data for Science and Technology	昭和 43	1968

23	国際経済学協会(IEA)	International Economic Association	昭和 44	1969
24	国際第四紀学連合(INQUA)	International Union for Quaternary Research	昭和 44	1969
25	国際鉱物学連合(IMA)	International Mineralogical Association	昭和 45	1970
26	太陽地球系物理学・科学委員会 (SCOSTEP)	Scientific Committee on Solar Terrestrial Physics	昭和 45	1970
27	国際自動制御連盟(IFAC)	International Federation of Automatic Control	昭和 46	1971
28	国際栄養科学連合(IUNS)	International Union of Nutritional Sciences	昭和 46	1971
29	世界工学団体連盟(WFEO)	World Federation of Engineering Organizations	昭和 47	1972
30	国際経済史協会(IEHA)	International Economic History Association	昭和 47	1972
31	世界気候研究計画(WCRP)	World Climate Research Programme	昭和 48	1973
32	国際歴史学委員会(CISH)	Le Comité International des Sciences Historiques	昭和 49	1974
33	国際薬理学連合(IUPHAR)	International Union of Pharmacology	昭和 50	1975
34	国際社会科学団体連盟(IFSSO)	International Federation of Social Science Organizations	昭和 52	1977
35	国際地図学協会(ICA)	International Cartographic Association	昭和 54	1979
36	国際実験動物科学会議(ICLAS)	International Council for Laboratory Animal Science	昭和 55	1980
37	アジア社会科学研究協議会連盟 (AASSREC)	Association of Asian Social Science Research Councils	平成 元	1989
38	国際微生物学連合(IUMS)	International Union of Microbiological Societies	平成 3	1991
39	国際農業工学会(CIGR)	Commission Internationale du Génie Rural	平成 7	1995
40	アイ・エー・ピー・フォーサイエンス(IAP)※	IAP for Science	平成 8	1996
41	アイ・エー・ピー・フォー・リサーチ(IAC)※	IAP for Research	平成 12	2000
42	国際北極科学委員会(IASC)	International Arctic Science Committee	平成 13	2001
43	国際土壌科学連合(IUSS)	International Union of Soil Science	平成 16	2004
44	国際社会科学評議会(ISSC)	International Social Science Council	平成 26	2014
45	アジア科学アカデミー・科学協会連合 (AASSA)	The Association of Academies and Societies of Sciences in Asia	平成 26	2014

(備考) No.40 及び 41 は、平成 28 年 3 月の IAP 総会において名称の変更が決定された。

(参考)

国際対応戦略立案分科会審議経過

○平成 28 年 1 月 28 日(金)第 1 回

今後の分科会の進め方等について審議を行った。

○平成 28 年 4 月 20 日(水)第 2 回

加入学術団体活動調査票を元に審議を行い、ヒアリングを行う団体を 2 団体抽出した。また、回答内容の確認が必要な団体（22 団体）については、調査票の再提出を求め、必要に応じてヒアリングを行うこととした。

なお、今回国際学術団体の新規加入希望はなかった。

○平成 28 年 6 月 8 日(水)第 3 回(メール審議)

再提出された加入学術団体活動調査票を元に審議を行い、説明を聞く必要のある団体（5 団体）を抽出。第 2 回分科会で抽出された団体とともにヒアリングを行うこととした。また、更に調査票への加筆が必要な団体（11 団体）について、調査票の再々提出を求めることとした。

○平成 28 年 7 月 6 日(水)第 4 回

再々提出された調査票（11 団体）の審議及びヒアリング（7 団体）を実施した。脱退候補となる団体は該当なしとされた。また調査票について更に加筆が必要な団体（9 団体）について、最終修正版の提出を求めることとした。

平成28年度代表派遣実施計画の変更、追加及び派遣者の決定について

以下のとおり、実施計画の変更、追加及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	派遣候補者(職名)	派遣期間(会期分)	開催地(国)	備考
1	STSワークショップ	吉野 博 第3部会員 東北大学名誉教授 ↓ 大西 隆 第3部会員 豊橋技術科学大学学長	平成28年6月6日～9日 ↓ 平成28年9月7日～10日	デリー、バンコク(インド、タイ) ↓ コロンボ(スリランカ)	派遣候補者、会期及び開催地の 変更 ※実施計画については第225回幹事会(平成 28年2月26日開催)にて承認済み
2	International Data Week (IDW)	大西 隆 第3部会員 豊橋技術科学大学学長	平成28年9月11日～14日	デンバー(米国)	代表派遣の追加 派遣者の決定
3	科学技術データ委員会(CODATA)総会	小関 敏彦 連携会員 東京大学副学長	平成28年9月11日	デンバー(米国)	代表派遣の追加 派遣者の決定
4	大気化学と地球汚染に関する国際委員会(iCACGP)科学運営委員会、地球大気科学国際協同研究計画(IGAC)科学運営委員会2016、同科学委員会2016	谷本 浩志 特任連携会員 国立環境研究所地球環境研究センター 地球大気化学研究室室長	平成28年9月22日～30日	デンバー等(米国)	代表派遣の追加 派遣者の決定
5	世界科学フォーラム(WSF)運営委員会 ↓ フランス科学アカデミー創立350周年記念行事、第2回政府に対する科学アドバイスに関する国際会議、及び世界科学フォーラム(WSF)運営委員会	花木 啓祐 第3部会員 東京大学大学院工学系研究科教授	平成28年7月14日～16日 ↓ 平成28年9月27日～30日	アンマン(ヨルダン) ↓ パリ(フランス)、ブリュッセル(ベルギー)	会期及び開催地の変更、 代表派遣の追加・派遣者の決定 ※世界科学フォーラム(WSF)運営委員会につ いては、第229回幹事会(平成28年5月20 日開催)にて承認済み
6	AASSA-NAST PHL Workshop on the Role of Science Academies in Sustainable Development	上田 一郎 第2部会員 北海道大学理事副学長	平成28年9月28日～29日	マニラ(フィリピン)	代表派遣の追加 派遣者の決定
7	Resilience of Art Cities to Natural Catastrophes: The Role of Academies	大窪 健之 特任連携会員 立命館大学理工学部都市システム工学科教授	平成28年10月11日～13日	ローマ(イタリア)	代表派遣の追加 派遣者の決定
8	世界科学会議(ICSU)臨時総会	花木 啓祐 第3部会員 東京大学大学院工学系研究科教授	平成28年10月24日	オスロ(ノルウェー)	代表派遣の追加 派遣者の決定

International Data Week (IDW)招へい者について

○招へい者

番号	国際会議等	会期		開催地 又は用務地	派遣候補者名 (職名)	備考
			計			
1	International Data Week (IDW)	9/11～ 9/17	7 日	デンバー (米国)	Gwen Phillips Director of Corporate Services and Governance Transition Ktunaxa Nations (カナダ)	講演者として参加する ため
2	International Data Week (IDW)	9/11～ 9/17	7 日	デンバー (米国)	Unni Karunakara Senior Fellow Yale University (米国)	講演者として参加する ため
2	International Data Week (IDW)	9/11～ 9/17	7 日	デンバー (米国)	Berhanu Abbegaz Executive Director African Academy of Sciences (エチオピア)	講演者として参加する ため
2	International Data Week (IDW)	9/11～ 9/17	7 日	デンバー (米国)	Dominique Babini Coordinator Latin American Council of Social Sciences (アルゼンチン)	講演者として参加する ため

大気化学と地球汚染に関する国際委員会 (iCACGP) 科学運営委員会、地球大気科学国際協同研究計画 (IGAC) 科学運営委員会
2016、同科学委員会 2016 招へい者について

○招へい者

番号	国際会議等	会期		開催地 又は用務地	派遣候補者名 (職名)	備考
			計			
1	大気化学と地球汚染に関する 国際委員会 (iCACGP) 科学 運営委員会、地球大気科学国 際協同研究計画 (IGAC) 科 学運営委員会 2016、同科学 委員会 2016	9/22～ 9/30	9 日	デンバー等 (米国)	Paul Beukes ----- Lecturer ----- North-West University (南アフリカ)	科学運営委員会委員 として参加するため
2	大気化学と地球汚染に関する 国際委員会 (iCACGP) 科学 運営委員会、地球大気科学国 際協同研究計画 (IGAC) 科 学運営委員会 2016、同科学 委員会 2016	9/22～ 9/30	9 日	デンバー等 (米国)	James Crawford ----- Principal investigator ----- Langley Research Center, NASA (米国)	科学運営委員会委員 として参加するため
3	大気化学と地球汚染に関する 国際委員会 (iCACGP) 科学 運営委員会、地球大気科学国 際協同研究計画 (IGAC) 科 学運営委員会 2016、同科学 委員会 2016	9/22～ 9/30	9 日	デンバー等 (米国)	Melita Keywood ----- Senior Research Scientist ----- Centre for Australian Climate and Weather Research (オーストラリア)	科学運営委員会委員 として参加するため

4	大気化学と地球汚染に関する 国際委員会 (iCACGP) 科学 運営委員会、地球大気科学国 際協同研究計画 (IGAC) 科 学運営委員会 2016、同科学 委員会 2016	9/22～ 9/30	9 日	デンバー等 (米国)	Tao Wang	科学運営委員会委員 として参加するため
					Professor	
					Hong Kong Polytechnic University (香港)	
5	大気化学と地球汚染に関する 国際委員会 (iCACGP) 科学 運営委員会、地球大気科学国 際協同研究計画 (IGAC) 科 学運営委員会 2016、同科学 委員会 2016	9/22～ 9/30	9 日	デンバー等 (米国)	Kim Oanh	科学運営委員会委員 として参加するため
					Professor	
					Asian Institute of Technology (AIT) (タイ)	

第2回日本－イスラエル・ワークショップ「サンゴ礁に関する生物多様性」
(仮題) の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：イスラエル科学・人文アカデミー、沖縄科学技術大学院大学（OIST）（調整中）、
日本サンゴ礁学会（調整中）
3. 日 時：（1）平成28年11月30日（水）9:00～17:00（開催時間確認中）
（2）平成28年12月1日（木）18:00～20:00（開催時間確認中）
4. 場 所：（1）沖縄科学技術大学院大学（OIST）及び
（2）ホテルサンパレス球陽館（沖縄県那覇市）

5. 開催趣旨：

日本学術会議とイスラエル科学・人文アカデミーが、科学技術の協力促進を図るため平成25年10月10日付で締結した覚書に基づき、両国在住の専門家を迎え、地球規模での気候変動や海洋の酸性化が、サンゴ礁の生態系に与える影響についての議論を行う。本会議では、互いの知見の共有化を図ると共に、持続可能な地球環境推進のため、本分野において優先的に進めるべき研究項目を探り、世界各国におけるサンゴ礁の危機的現状とその緩和策について、各方面の認識を高めることを目的とする。

6. 次 第：

11月30日（水）：

9:00 開会の挨拶と会議の趣旨説明等

花木 啓祐（日本学術会議第三部会員・副会長、東京大学大学院工学系研究科教授）

佐藤 矩行（日本学術会議連携会員、沖縄科学技術大学院大学（OIST）マリンゲノミックスユニット主宰・教授）

17:00 閉会

12月1日（木）

18:00 開会の挨拶と会議の趣旨説明等

花木 啓祐（日本学術会議第三部会員・副会長、東京大学大学院工学系研究科教授）

鈴木 款（日本サンゴ礁学会会長、静岡大学創造科学技術大学院環境・エネルギーシステム専攻特任教授）

20:00 閉会

参加予定のイスラエル人専門家（計8名程度予定、一部確認中）：

- ヨッシー・ロヤ : テルアビブ大学動物学部海洋生態学学科教授
アマツィア・ゲニン : エルサレム・ヘブライ大学生命科学研究所生態学・発生学・行動学部教授；海洋科学大学共同利用研究所所属
アサフ・ヴァルディ : ワイツマン科学研究所植物・環境科学部生化学科ヴァルディグループ主催研究者
ギタイ・ヤヘル : ルッピン・アカデミー・センター海洋科学学部（水産・環境科学）上席講師
オレン・レヴィ : バル＝イラン大学生命科学学部ミーナ・アンド・エヴェラルド・グッドマン学科上席講師
ミカ・イラン : テルアビブ大学動物学部海洋生態学講座教授
アリエル・クシュマロ : ベングリオン大学ネゲフバイオテクノロジー国立研究所工学科学学部バイオテクノロジー工学科上席講師

日本在住の参加予定者・専門家（上記以外、一部確認中）：

- 新里 宙也 : 沖縄科学技術大学院大学マリンゲノミクスユニットグループリーダー（サンゴ礁ゲノム科学分野）、日本サンゴ礁学会会員
御手洗 哲司 : 沖縄科学技術大学院大学 海洋生態物理学ユニット准教授（サンゴ礁海洋物理学分野）、日本サンゴ礁学会会員
茅根 創 : 東京大学理学研究科・理学部地球惑星専攻地球惑星環境学科教授、日本サンゴ礁学会評議員・事務局長
酒井 一彦 : 琉球大学熱帯生物圏研究センター 瀬底研究施設教授（サンゴ礁生物生態分類学分野）、日本サンゴ礁学会評議員
波利井 佐紀 : 琉球大学熱帯生物圏研究センター 瀬底研究施設准教授（サンゴ礁生物生態分類学分野）、日本サンゴ礁学会評議員
カサレト・ベアトリス・エステラ : 静岡大学グリーン科学技術研究所グリーンバイオ研究部門教授国際サンゴ礁学会評議委員、日本サンゴ礁学会国際連携委員会委員長
フレデリック・シニゲル : 琉球大学熱帯生物圏研究センター 瀬底研究施設ポスドク研究員（サンゴ礁生物生態分類学分野）、日本サンゴ礁学会会員
ジェームス・デイビス・ライマー : 琉球大学理学部生物系准教授（サンゴ礁生物生態分類学分野）、日本サンゴ礁学会評議員
（予備）栗原 晴子 : 琉球大学理学部生物系助教（海洋酸性化）、日本サンゴ礁学会会員
中村 崇 : 琉球大学理学部生物系准教授（サンゴ生物学）、日本サンゴ礁学会評議員

(参考)

最近の各国アカデミー等との交流活動状況について

【2014 年】

- 6/30～7/1 日仏シンポジウム「エネルギーの将来のための先端材料の役割エネルギー生産・貯蔵のための高信頼性・耐久性・安全性の材料にむけて」の開催
(東京：日本学術会議)
- 10/1～10 カナダ王立協会との「日本・カナダ女性研究者交流」による日本人女性科学者の派遣
(派遣国：カナダ)
- 11/13 韓国：韓国科学技術アカデミーと MOU 締結
(ソウル：世宗大学)

【2015 年】

- 3/23～25 イスラエル科学・人文アカデミーとの日本・イスラエル「水問題ワークショップ」参加のための日本人専門家の派遣
(派遣国：イスラエル)
- 9/7 中国：中国科学技術協会と MOU 締結
(北京：中国科学技術協会)
- 9/5 日独シンポジウム「ダイバーシティが創る卓越性 学術界における女性・若手研究者の進出」の開催
(東京：日本学術会議)
- 9/15～16 日仏シンポジウム「スマートシティ」の開催
(東京：日本学術会議)

提案 11 は海外派遣者決定のため、別添なし。(資料 5 本紙)